
ESET Endpoint Protection シリーズ

クライアント管理 クラウド対応オプション Lite (7.2)

利用手順書



ENDPOINT
PROTECTION
ADVANCED

イーセツト エンドポイント プロテクション アドバンスド



ENDPOINT
PROTECTION
STANDARD

イーセツト エンドポイント プロテクション スタンダード

第 5 版

2021 年 3 月

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

目次

1. はじめに	3
2. 必要な作業について	4
3. 事前準備	5
4. 既存ウイルス対策ソフトのアンインストール【クライアント側作業】	14
5. クライアント端末への展開【管理サーバー側作業】【クライアント側作業】	15
6. クラウドオプションで管理できていることを確認【管理サーバー側作業】	52

1. はじめに

- 本書は、法人向けサーバー・クライアント用製品「ESET クライアント管理 クラウド対応オプション Lite(以下、クラウドオプション Lite)」をご利用になるお客さま向けの手順書となります。
- 本書は、本書作成時のソフトウェアおよびハードウェアの情報に基づき作成されています。ソフトウェアのバージョンアップなどにより、記載内容とソフトウェアに搭載されている機能および名称が異なっている場合があります。また本書の内容は、将来予告なく変更することがあります。
- 本書内の画面イメージは、Windows10をベースにして作成しております。そのため、OSによっては記載内容と名称が異なっている場合がございます。
- 本書内の画面イメージは、ESET Security Management Center V7.2 と ESET Endpoint アンチウイルス V7.3 を使用しています。他のプログラムでも導入の流れに違いはございません。各プログラムのインストールおよび、アンインストール手順に関しては、弊社ユーザーズサイトで公開しています、各プログラムのユーザーズマニュアルを参照ください。
- 本製品の一部またはすべてを無断で複写、複製、改変することはその形態問わず、禁じます。
- ESET、ThreatSense、LiveGrid、ESET Endpoint Protection、ESET Endpoint Security、ESET Endpoint アンチウイルス、ESET File Security for Microsoft Windows Server、ESET Security Management Center は、ESET, spol. s r.o.の商標です。Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

2. 必要な作業について

ESET クライアント管理 クラウドオプション Lite をご利用いただくにあたり、必要な作業は以下の通りです。クラウドオプション Lite のご利用の際には、必ず「3.事前準備」をご確認いただき、導入作業の流れ、必要な情報を確認の上、導入作業を進めるようにしてください。

3.事前準備 (P.5)

ESET クライアント管理 クラウド対応オプション Lite のご利用に際し、以下の作業を行います。

- 3.1.動作環境・接続環境の確認
- 3.2.管理可能なプログラムの確認
- 3.3.注意事項,および禁止事項について
- 3.4.使用できない機能、および機能制限について
- 3.5.既に ESET 製品をご利用いただいている場合の移行方法の確認
- 3.6.ライセンス情報の確認、ログイン情報の準備

4.既存ウイルス対策ソフトのアンインストール【クライアント側作業】 (P.14)

現在インストールされているウイルス対策ソフトをアンインストールします。
すでに ESET 製品をご利用の場合は、以下の作業を参照し、クラウドオプション Lite でクライアント管理を実施します。

5.クライアント端末への展開【管理サーバー側作業】【クライアント側作業】 (P.15)

クラウドオプション Lite で管理するために、各 OS に応じて以下の導入方法を参照し、クライアント展開を実施してください。

- A) Windows 端末への展開 (P.15)
- B) Mac、Linux 端末への展開 (P.46)

6. クラウドオプション Lite で管理できていることを確認【管理サーバー側作業】

「5.クライアント端末への展開」を実施したら、実際にクラウドオプション Lite の管理画面でクライアントの管理ができていることを確認します。

完了

3. 事前準備

3.1. 動作環境・接続環境の確認

クラウドオプション Lite をご利用になる前に、下記 Web ページにて動作環境をご確認いただき、利用可能な環境をご用意ください。

- ESET Endpoint Protection Advanced 動作環境
https://eset-info.canon-its.jp/business/endpoint_protection_adv/spec.html
- ESET Endpoint Protection Standard 動作環境
https://eset-info.canon-its.jp/business/endpoint_protection_std/spec.html

3.2. 管理可能なプログラムの確認

クラウドオプション Lite では、クライアント管理用プログラム「ESET Security Management Center (ESMC)」をクラウド上にご用意して提供させていただきます。

クラウドオプション Lite で管理できる、法人向けサーバー・クライアント用製品のプログラムは以下となります。(2021 年 2 月時点)

対象プログラムとバージョンをご確認のうえ、ご使用ください。

Windows			Mac	Linux	Android	Windows	Linux	
EES/EEA ※ 1			EES/EEA ※2	EAVL ※3	EESA ※4	EFSW ※5	EFSL ※6	
V6.6	V7.X	V8.0	V6.X	V4	V2.X	V7.X	V4.5	V7.2
○	○	○	○	○	×	○	○	○

※クラウドオプション Lite では、モバイルデバイスの管理はできません。

- ※1 EES=ESET Endpoint Security / EEA=ESET Endpoint アンチウイルス
- ※2 EES=ESET Endpoint Security for OS X / EEA=ESET Endpoint アンチウイルス for OS X
- ※3 EAVL=ESET NOD32 アンチウイルス for Linux Desktop
- ※4 EESA=ESET Endpoint Security for Android
- ※5 EFSW=ESET File Security for Microsoft Windows Server
- ※6 EFSL=ESET File Security for Linux

3.3. 注意事項、および禁止事項について

クラウドオプション Lite をご利用いただくうえでの注意事項、および禁止事項がございます。必ず下記をご確認のうえ、ご利用ください。

【注意事項】

① クラウドオプション Lite で使用する通信ポートについて

クライアント用プログラムを管理するには、クライアント用プログラムおよび管理画面端末から、クラウド上管理サーバーESET Security Management Center の以下のポートへ通信できる必要があります。

- ・ 2222/TCP : ESET Management エージェント (EM エージェント) が ESET Security Management Center と通信する際に利用
- ・ 443/TCP : ESET Security Management Center が管理画面利用端末からの Web コンソールアクセスを受ける際に利用
- ・ 80/TCP : 検出エンジンのアップデート用サーバーがクライアント用プログラムからのアクセスを受ける際に利用
- ・ 443/TCP : ESET Security Management Center が管理画面利用端末からの Web コンソールアクセスを受ける際に利用

【HTTP プロキシ経由する場合】

HTTP プロキシ経由で ESET Security Management Center に ESET Management エージェントを接続する場合は、以下の条件を満たす必要がありますので、ご注意ください。

- ・ HTTP プロキシが ESET Security Management Center で利用する TLS/SSL 通信 (2222/TCP) を転送できること
- ・ HTTP CONNECT メソッドをサポートしている
- ・ プロキシ認証を必要としないこと (ユーザー名/パスワード設定不可)
- ・ プロキシサーバーから、上記ポートへ通信できること

② ウェイクアップコール (ESMC とクライアントの即時通信) について

ESET Security Management Center は ESET Push Notification Service (EPNS) を利用して ESET Management エージェントにウェイクアップコールを送信し、即時通信することが可能です。ウェイクアップコールを利用する場合は、以下の条件を満たす必要があります。

- ・ ESET Management エージェントが EPNS サーバーへ、8883/MQTT で直接接続できること

接続詳細	
転送セキュリティ	SSL
プロトコル	MQTT (コンピューター間接続プロトコル)
ポート	8883
EPNS サーバーのホストアドレス	epns.eset.com

※HTTP プロキシを経由することはできません。

③ **既定のグループのグループ名変更について**

クラウドオプション Lite の ESET Security Management Center では、お客さま用に既定のグループを一つ用意しております。
既定グループのグループ名は、変更しないでください。

④ **バックアップおよびメンテナンスについて**

クラウドオプション Lite サーバー全体のバックアップを毎日 AM2 時～AM4 時で取得します。バックアップ取得中の数分間、ESET Security Management Center が停止します。この間にタスクを設定するとタスクが実行されない場合がありますので、本時間内にタスクのスケジュールの指定は行わないようにしてください。
また、クラウドオプション Lite は複数のお客様との共用サーバーのため、お客様環境ごとのバックアップは実施しておりません。

⑤ **ESET Security Management Center 上のログ保存について**

ESET Security Management Center が取得するクライアント PC からの各種ログデータについては、6 ヶ月間保存します。また、保存期間を変更することはできません。

【禁止事項】

① **ESET Management エージェントの接続間隔について**

クラウドオプション Lite の ESET Security Management Center とクライアント (ESET Management エージェント) の接続間隔は既定で「20 分」に設定されており、変更することはできません。

② **レポートファイルの過度なダウンロードについて**

レポートファイルをダウンロードする場合、一日に合計 30MB 以上のダウンロードは実施しないでください。

3.4. 使用できない機能、および機能制限について

クラウドオプション Lite では下記機能がご使用いただけませんのでご注意ください。

	機能名	詳細	設定場所
1	レポートの電子メールによる送信	レポートを電子メールで送信する機能	[タスク] -[サーバータスク] -[レポートの作成]
2	通知	SNMP トラップサービスや Syslog への送信、電子メールにより、管理者へメール通史する機能	[通知]
3	EM エージェント展開	ESET Management エージェントをリモートで展開する機能	[タスク] -[サーバータスク] -[エージェント展開]
4	静的グループの同期	AD/VMware/LDAP/Open Directory/Windows ネットワークと連携して、管理サーバー上に静的グループを自動で作成する機能	[タスク] -[サーバータスク] -[静的グループの同期]
5	ユーザー作成	ESET Security Management Center にログインするためのログインアカウント作成機能（アクセス権の設定）	[詳細]-[ユーザー作成] [詳細]-[権限設定]
6	モバイルデバイスの管理	モバイルデバイス（Android）を追加・管理する機能	-
7	EM エージェントのローカル展開	ESET Management エージェントのインストーラーを用いたインストール	-
8	ピア証明書の作成	ピア証明書と認証局を作成する機能	[詳細]-[ピア証明書] [詳細]-[認証局]
9	ライセンスの追加	新規にライセンスを追加する機能	[詳細] -[ライセンス管理]
10	監査ログ	監査ログの作成と閲覧機能	[レポート]-[監査ログ]
11	ユーザー同期	AD と連携しユーザー情報を同期する機能	[タスク] -[サーバータスク] -[ユーザー同期]
12	レポートの作成	サーバータスク機能を利用してレポートをサーバー上に作成する機能	[タスク] -[サーバータスク] -[レポートの作成]
13	サーバー設定	ESET Security Management Center の設定変更	[管理] -[サーバーの設定]
14	Rogue Detection sensor を利用したコンピュータ追加	Rogue Detection sensor コンポーネントをインストールし、コンピュータを追加する機能	-

■ クラウドオプション Lite での機能制限について

クラウドオプション Lite では、下記機能をご利用いただくことはできませんが、既定でテンプレートが用意されておりません。
ご利用になる場合は、下記を参考にお客さまご自身で作成ください。

	機能名	参考
1	ポリシー	ESET Security Management Center V7.2 ユーザーズマニュアルより「8.11 ポリシー (P496) 」
2	動的グループ (※)	ESET Security Management Center V7.2 ユーザーズマニュアルより 「8.15.1 動的グループテンプレート (P556) 」

※動的グループとは、指定した条件 (OS など) に合わせて、管理しているコンピューターをリアルタイムに自動でグループ分けするグループ機能です。

3.5. 既に ESET 製品をご利用いただいている場合の移行方法の確認

ご使用されている環境により移行方法が異なります。下記をご確認ください。

(1) 個人向け製品を使用

個人向け製品のプログラムはクラウドオプション Lite で管理することができません。
法人向けサーバー・クライアント用製品のプログラムに入れ替える必要があります。

⇒「3.事前準備」で作業の流れ、必要な情報を確認後、「4.既存のウイルス対策ソフトのアンインストール【クライアント端末側作業】」以降の作業を実施してください。

(2) 既に法人向けサーバー・クライアント用製品プログラムを使用。 クライアント管理は未実施。

ご利用の法人向けサーバー・クライアント用製品プログラムが、クラウドオプション Lite で管理可能なプログラムの場合、ESET Management エージェントを導入することで、クラウドオプション Lite でクライアント管理を行うことができます。

⇒「3.事前準備」で作業の流れ、必要な情報を確認後「5.クライアント端末への展開」にて、【既存お客様向け】の手順を参照し、クライアント管理を実施してください。

(3) 既に法人向けサーバー・クライアント用製品プログラムを使用。

ESET Remote Administrator V6または、ESET Security Management Center V7 (オンプレミス) で管理を実施

クライアントの管理を社内にオンプレミスで構築したESET Remote Administrator V6またはESET Security Management Center V7からクラウドオプション Liteに変更する場合には、現在インストール済みのERAエージェントまたはESET Managementエージェントをアンインストールし、新たにクラウドオプション Lite用のESET Managementエージェントをインストールすることで、クラウドオプション Liteで提供しているESET Security Management Centerに管理を変更することができます。

⇒コントロールパネルのプログラムと機能より「ESET Remote Administrator Agent」または「ESET Management Agent」のアンインストールを実施後、「5.クライアント端末への展開」より【既存お客様向け】の手順を参照し、クライアント管理を実施してください。
クライアントプログラムについても、最新バージョンへのバージョンアップをご検討ください。

(4) 既に法人向けサーバー・クライアント用製品プログラムを使用。

クラウドオプション (ESET Security Management Center V7.0) で管理を実施

すでにクラウドオプション LiteのESET Security Management Center V7.0をご利用で、ESET Security Management Center V7.2にバージョンアップされた場合には、現在インストール済みの「ESET Managementエージェント V7.0」を「ESET Managementエージェント V7.2」にバージョンアップする必要があります。

⇒ESET Security Management Centerのタスク機能を利用しバージョンアップが可能です。
ユーザーズマニュアルよりダウンロード可能な「ESET Security Management CenterV7.2 ユーザーズマニュアル」より「4.2 コンポーネントアップグレードタスク (P155)」を実施してください。

※本タスクを実行すると、各クライアントからのネットワーク負荷がかかるため台数や時間を分けるなど、実行タイミングを分散することを推奨します。



現在ご利用中のクライアントプログラムのバージョン確認方法

ESET 製品をご利用の端末で、クライアント端末にインストールされている ESET 製品のバージョンがご不明の場合は、下記 Web ページよりご確認ください。

【プログラムのバージョンの確認方法】

https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/140?site_domain=business

3.6. ライセンス情報・ログイン情報の準備

クラウドオプション Lite を利用するにあたり以下 2 種類の情報が必要です。お手元にご用意ください。

(1)ESET ライセンス製品 ライセンス情報

「ESET ライセンス製品」をお申し込みいただいたお客様にメールで、「ESET セキュリティ ソフトウェアシリーズ用 ユーザーズサイト ログイン情報のご案内」をお送りしておりますのでご参照ください。

- シリアル番号
- ユーザー名

(2)クラウド対応オプション Lite ログイン情報

「ESET クライアント管理 クラウド対応オプション Lite」をお申し込みいただいたお客様へ、ユーザーズサイトの「ライセンス情報」に下記情報を記載しておりますので、ご参照ください。

- | | |
|-------------------------------|----------------|
| • Web コンソール（管理画面）ログイン用 URL | ※下記ユーザーズサイトに記載 |
| • ESMC サーバー/ERA サーバーの IP アドレス | ※下記ユーザーズサイトに記載 |
| • ログイン名 | ※下記ユーザーズサイトに記載 |
| • 初回ログインパスワード | ※下記ユーザーズサイトに記載 |
| • 証明書パスフレーズ | ※下記ユーザーズサイトに記載 |

下記弊社ユーザーズサイトにて、ライセンス情報や各種プログラム、マニュアルを公開しております。

ライセンス情報やプログラムの各種設定につきましては、ユーザーズサイトをご参照ください。

■ ESET Endpoint Protection シリーズ ユーザーズサイト

<https://canon-its.jp/product/eset/users/>

※ログイン時に「シリアル番号」、「ユーザー名」が必要です。

1. ユーザーズサイトログイン後、「ライセンス情報/申込書作成」をクリックしてください。
※マニュアルについては、「プログラム/マニュアル」タブよりダウンロードすることができます。



2. クラウドオプション Lite のライセンス情報、またはログイン情報は、以下をご参照ください。

ア)ESET ライセンス製品 ライセンス情報

アクティベーション情報 (プログラムの利用に必要な情報)

Windows / Mac向けプログラムのバージョン6以降、Android向けプログラムのバージョン2をご利用の場合は以下が必要です。

製品認証キー	
ライセンスID	

なお、以下の作業をおこないたい方は、ESET社が提供するWebサイト「ESET License Administrator」をご利用ください。

- オフラインライセンスファイルのダウンロード
- 手動によるコンピューターのアクティベーション解除

※ 「ESET License Administrator」の上記の機能以外については、サポート対象外です。

※ 注意事項は[こちら](#)をご参照ください。

[ESET License Administrator に移動する](#)

[画面の見方はこちら](#)

左記以外のプログラムをご利用の場合は以下が必要です。

ユーザー名	
パスワード	
ライセンスキーファイル	ダウンロード

イ)クラウド対応オプション ログイン情報

ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite ご利用情報

Webコンソールのご利用時や、クライアント端末とクラウド上のクライアント管理用プログラムの接続などに、以下の情報が必要です。

製品名	ESETクライアント管理 クラウド対応オプション Lite 6-24ユーザー用
Webコンソール (管理画面) ログイン用URL	https://[]/era/webconsole
ESMC サーバー/ERA サーバーのIPアドレス	
ログイン名	
初回ログインパスワード (※)	
証明書パスフレーズ	
契約終了日	2021年7月20日

(※) ログインパスワードは初回ログイン後に変更してください。変更後のログインパスワードはお客さまご自身で大切に保管してください。

【参考】

ユーザーズサイト「プログラム/マニュアル」より、「最新バージョンをダウンロード」または「プログラム一覧からダウンロード」を選択すると、以下のようなダウンロードページが表示され、各種プログラムやマニュアルのダウンロードが可能です。

Windows向けクライアント用プログラム

Windows環境でご利用になる場合は、以下のクライアント用プログラムをダウンロードしてください。

プログラム名	リリースノート	変更内容	プログラム		ユーザーズマニュアル	設定に関する 注意事項
			64bit	32bit		
ESET Endpoint Security (Ver.7.3.2039.1) [2020.8.3] 新バージョン提供開始	ダウンロード	こちら	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード
ESET Endpoint アンチウイルス (Ver.7.3.2039.1) [2020.8.3] 新バージョン提供開始	ダウンロード	こちら	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード	ダウンロード

4. 既存ウイルス対策ソフトのアンインストール【クライアント側作業】

・他社製ウイルス対策ソフトのアンインストール

クライアント端末に他社製のウイルス対策ソフトがインストールされている場合は、アンインストールする必要があります。
複数のウイルス対策ソフトの併用は、パフォーマンスの低下やトラブルの原因となります。



他社製ウイルス対策ソフトのアンインストール方法がご不明の場合は、下記の WEB ページをご参照ください。

【他社製ウイルス対策ソフトのアンインストールについて】

https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/81?site_domain=business

他社製ウイルス対策ソフトのアンインストール後は、本資料「**5.クライアント端末への展開**【管理サーバー側作業】【クライアント端末側作業】」へ進んでください。

5. クライアント端末への展開【管理サーバー側作業】【クライアント側作業】

クラウドオプション Lite でクライアント管理を行う手順について、【新規お客様向け】また【既存お客様向け】に以下 2 通りの手順を記載しております。
ご利用状況に応じて、以下を参考にクラウドオプション Lite での管理を開始してください。
Mac、Linux 端末への導入については、「B) Mac、Linux 端末への展開 (P46)」をご確認ください。

A) Windows 端末への展開

【新規お客様向け】

クライアント用プログラムがインストールされていない

【既存お客様向け】

すでにクライアント用プログラムがインストールされている

＜事前準備＞ HTTP プロキシを経由する場合【管理サーバー側作業】

HTTP プロキシ経由で ESMC へ接続する場合、EM エージェントとクライアントプログラムの両プログラムに対して、HTTP プロキシ経由用の設定をポリシーで作成します。
HTTP プロキシを経由しない場合は、下記の手順に進んでください。



A-1-1. オールインワンインストーラーの作成 【管理サーバー側作業】

「ESET クライアント用プログラム」と、「EM エージェント」を一括にインストールするオールインワンインストーラーを ESMC で作成します。
オールインワンインストーラー作成後はクライアント端末に配布します。



A-1-2. オールインワンインストーラーの実行 【クライアント側作業】

インストールが完了すると、クラウドオプション Lite の ESMC と通信が自動的に行われます。



A-2-1. オールインワンインストーラー (EM エージェントのみ) の作成 【管理サーバー側作業】

「EM エージェント」のみをインストールするオールインワンインストーラーで作成します。
オールインワンインストーラー作成後はクライアント端末に配布します。



A-2-2. オールインワンインストーラーの実行 【クライアント側作業】

インストールが完了すると、クラウドオプション Lite の ESMC と通信が自動的に行われます。



7. クラウドオプション Lite で管理ができていることを確認【管理サーバー側作業】

Web ブラウザからクラウドオプション Lite の ESMC にアクセスし、クライアントの管理状況を確認します。

＜事前準備＞ HTTP プロキシを経由する場合【管理サーバー側作業】

各クライアントが HTTP プロキシを経由してクラウドオプションの ESMC に接続する場合は、事前に EM エージェントとクライアントプログラムの両プログラムに対して、HTTP プロキシ経由用の設定をポリシーで作成します。

HTTP プロキシを経由しない場合は、新規または既存お客様向け手順に応じて、オールインワンインストーラー作成に進んでください。

以下に、各プログラムのポリシー作成手順を記載します。

【EM エージェント向け、HTTP プロキシ経由ポリシー作成方法】

1. Web ブラウザより、「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「Web コンソール（管理画面）ログイン用 URL」にアクセスします。

以下の画面が表示されますので、「危険性を承知で続行」 をクリックします。



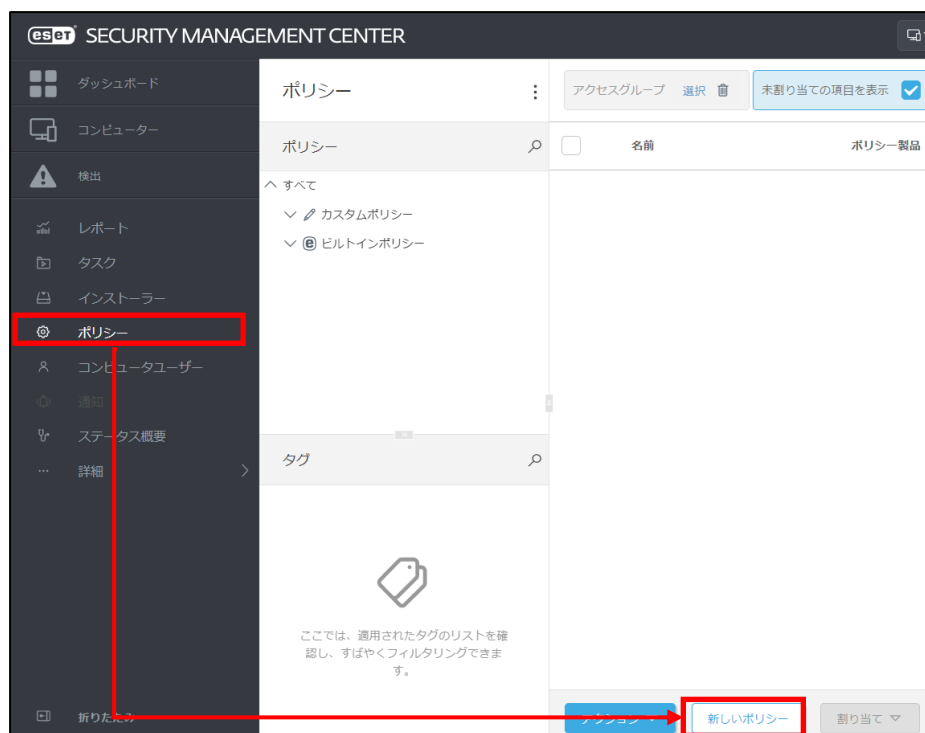
※ここでは、ESET Security Management Center インストール時に作成したセキュリティ証明書を利用しているため、管理画面アクセス時に上記の注意画面が表示されます。

※お使いのブラウザより、表示内容が異なります。

2. 「3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備」で確認した①「ESMC ログイン名」、②「ESMC ログインパスワード」を入力し、③「日本語」を選択して、④「ログイン」をクリックします。

※初回ログイン時、また、パスワード有効期限が切れた場合は、画面の指示に従ってパスワード変更を行ってください。また、左下の「パスワード変更」から変更することも可能です。

3. 「ポリシー」→「新しいポリシー」をクリックします。



4. 以下を参考に入力し、「続行」をクリックします。

名前	HTTPプロキシ経由ポリシー (EM エージェント)
説明 (任意)	HTTPプロキシを経由するためのプロキシ設定

新しいポリシー

ポリシー > HTTPプロキシ経由ポリシー (EMエージェント)

基本

設定

割り当て

サマリー

名前

HTTPプロキシ経由ポリシー (EMエージェント)

説明

HTTPプロキシを経由するためのプロキシ設定

タグ

タグを選択

戻る 続行 終了 キャンセル

5. 「ESET Management Agent」を選択し、「詳細設定」を展開します。
 プロキシ設定タイプにて、「グローバルプロキシ」が選択されていることを確認し、左側アイコンで真ん中の「●」を選択します。
 グローバルプロキシの「編集」をクリックします。

新しいポリシー

ポリシー > HTTPプロキシ経由ポリシー (EMエージェント)

基本

設定

割り当て

サマリー

ESET Management Agent

接続

アップデート

詳細設定

HTTPプロキシ

プロキシ設定タイプ

グローバルプロキシ

編集

レプリケーション(ESMCサーバー)

ESETサービス(アップデート、パッケージ、テレメトリー)

ウェイクアップコール

UDPv4ポート

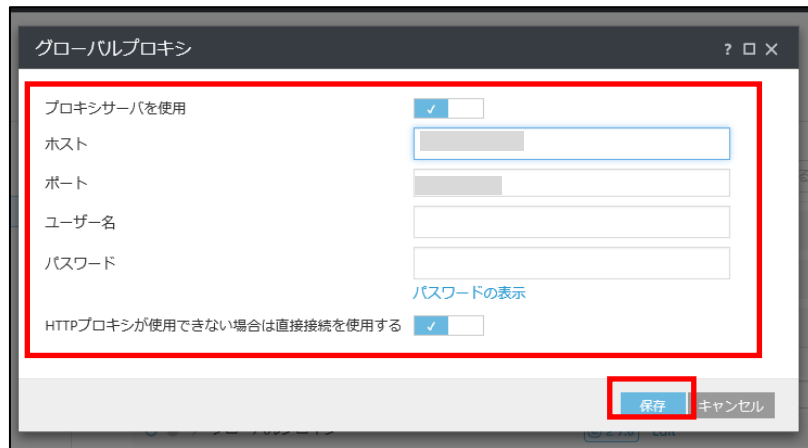
UDPv6ポート

互換性

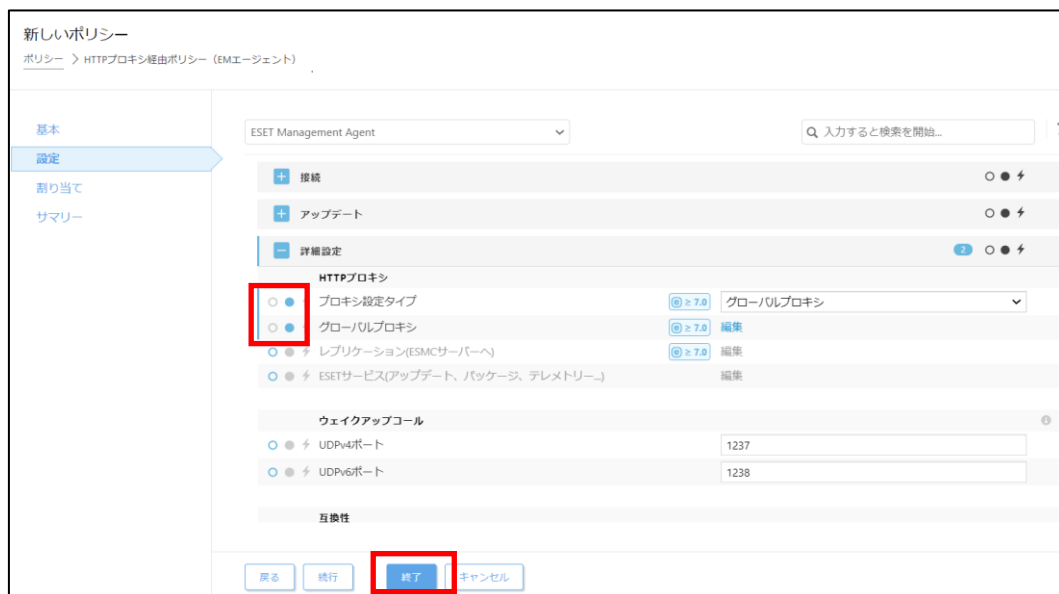
戻る 続行 終了 キャンセル

6. 以下の通り入力し、「保存」をクリックします。

プロキシサーバを使用	有効にする
ホスト	HTTP プロキシサーバーのホスト名または IP アドレス
ポート	HTTP プロキシサーバーのポート番号
ユーザー名	プロキシ認証に対応していないため設定不可
パスワード	
HTTP プロキシが使用できない場合は直接接続を使用する	接続する場合は有効にする



7. 「プロキシ設定タイプ」と「グローバルプロキシ」のアイコンが、真ん中の「●」であることを確認し、「終了」をクリックします。

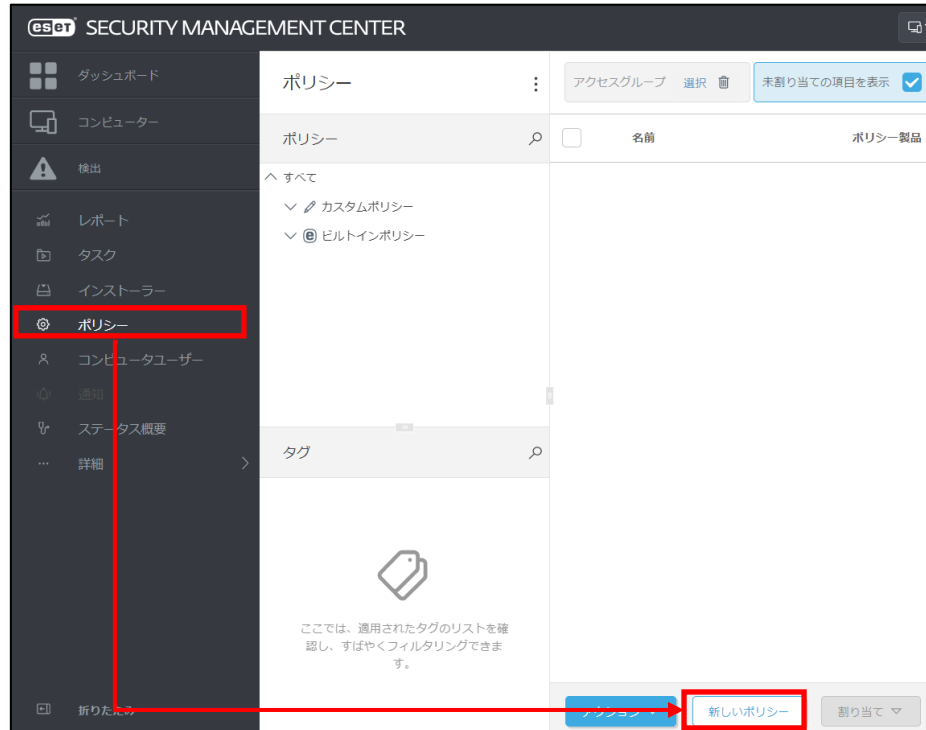


以上で、EM エージェント向け、HTTP プロキシ経由ポリシーの作成は完了です。
本ポリシーは、展開時にインストーラーに組み込むことで適用されます。

続いて、クライアントプログラムが HTTP プロキシを経由するためのポリシーを作成します。

【クライアントプログラム向け、HTTP プロキシ経由ポリシー作成方法】

1. ESMC にログインし、「ポリシー」→「新しいポリシー」をクリックします。



2. 以下を参考に入力し、「続行」をクリックします。

名前	HTTP プロキシ経由ポリシー (クライアント)
説明 (任意)	HTTP プロキシを経由するためのプロキシ設定

新しいポリシー

ポリシー > HTTP プロキシ経由ポリシー (クライアント)

基本

設定

割り当て

サマリー

名前

HTTP プロキシ経由ポリシー (クライアント)

説明

HTTP プロキシを経由するためのプロキシ設定

タグ

タグを選択

戻る 続行 終了 キャンセル

3. クライアント OS の場合「ESET Endpoint for Windows」、サーバー OS の場合「ESET File Security for Windows Server(V6+)」を選択し、「ツール」→「プロキシサーバ」と展開します。

The screenshot shows the ESET management console interface. On the left, a sidebar contains a menu with '基本' (Basic), '設定' (Settings), '割り当て' (Assignment), and 'サマリー' (Summary). Under '設定', 'ツール' (Tools) is highlighted, and its sub-menu 'プロキシサーバ' (Proxy Server) is also highlighted. The main area displays the 'Proxy Server' configuration page for 'ESET Endpoint for Windows'. It includes a search bar at the top right. The configuration options are:

- ☒ プロキシサーバを使用 (Use proxy server)
- ☐ プロキシサーバ (Proxy server)
- ☐ ポート (Port) with a value of 3128
- ☐ プロキシサーバは認証が必要 (Proxy server requires authentication)
- ☐ ユーザー名 (Username)
- ☐ パスワード (Password)
- ☐ プロキシが使用できない場合は直接接続を使用する (Use direct connection if proxy is unavailable) with a version indicator '6.4'.

 At the bottom, there are buttons for '戻る' (Back), '続行' (Continue), '終了' (End), and 'キャンセル' (Cancel).

4. 以下の通り入力します。

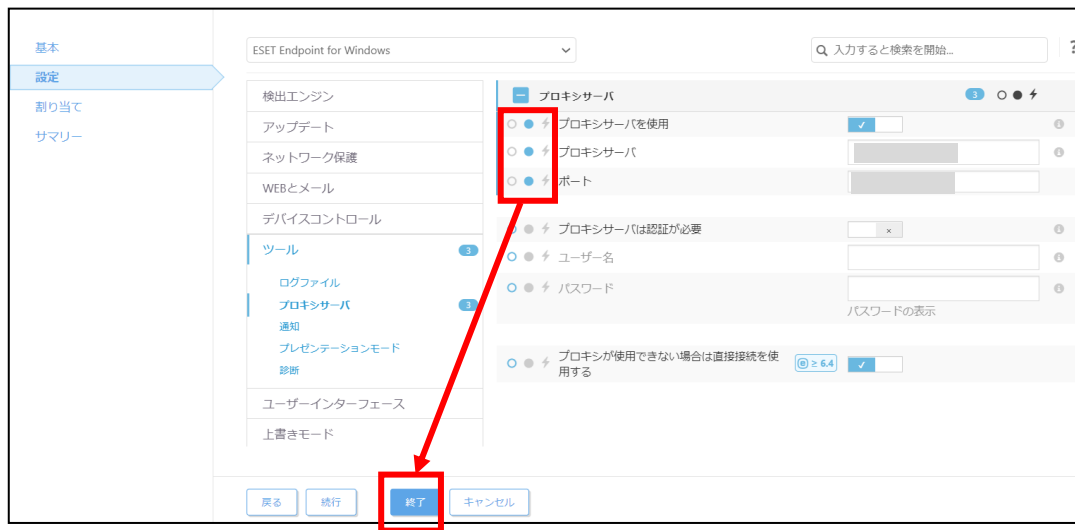
プロキシサーバを使用	有効にする
プロキシサーバ	HTTP プロキシサーバーのホスト名または IP アドレス
ポート	HTTP プロキシサーバーのポート番号
プロキシサーバは認証が必要	プロキシ認証に対応していないため設定不可
ユーザー名	
パスワード	
HTTP プロキシが使用できない場合は直接接続を使用する	接続する場合は有効にする

This screenshot is similar to the one above but with a red rectangular box highlighting the input fields for the proxy server configuration. The box encompasses the following elements:

- The 'プロキシサーバ' (Proxy server) radio button.
- The text input field for the proxy server address.
- The 'ポート' (Port) input field with the value 3128.
- The 'プロキシサーバは認証が必要' (Proxy server requires authentication) radio button.
- The 'ユーザー名' (Username) input field.
- The 'パスワード' (Password) input field.

 The rest of the interface, including the sidebar and bottom buttons, remains the same as in the previous screenshot.

5. 「プロキシサーバを使用」「プロキシサーバ」「ポート」のアイコンが、真ん中の「●」であることを確認し、「終了」をクリックします。



以上で、クライアントプログラム向け、HTTP プロキシ経由ポリシーの作成は完了です。本ポリシーは、展開時にインストーラーに組み込むことで適用されます。

続いて、新規、もしくは、既存環境に応じて、オールインワンインストーラーの作成・実行に進んでください。



ポリシーの作成について、詳細は以下 Web ページもご参考ください。
【ESET Security Management Center V7 を利用して、新しいポリシーを作成する手順】
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/11854?site_domain=business

A-1-1. オールインワンインストーラーの作成【管理サーバー側作業】

クラウドオプションでクライアントの管理を行うためには、ESET クライアント用プログラムに加えて、ESET Management エージェント（以降 EM エージェント）のインストールが必要です。管理サーバーでは、EM エージェントと ESET クライアント用プログラムを一つにまとめたインストーラーパッケージ「オールインワンインストーラー」を作成することができます。

以下に、オールインワンインストーラーの作成手順を記載します。

1. Web ブラウザより、「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「Web コンソール（管理画面）ログイン用 URL」にアクセスします。

以下の画面が表示されますので、「危険性を承知で続行」をクリックします。



※ここでは、ESET Security Management Center インストール時に作成したセキュリティ証明書を利用しているため、管理画面アクセス時に上記の注意画面が表示されます。

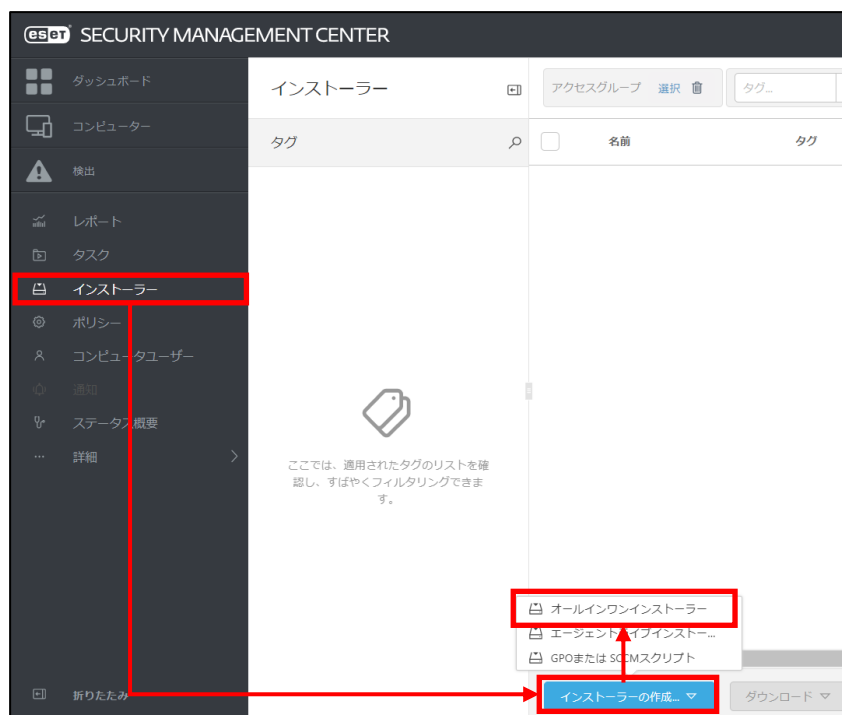
※お使いのブラウザより、表示内容が異なります。

2. 「3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備」で確認した①「ESMC ログイン名」、②「ESMC ログインパスワード」を入力し、③「日本語」を選択して、④「ログイン」をクリックします。

※初回ログイン時、また、パスワード有効期限が切れた場合は、画面の指示に従ってパスワード変更を行ってください。また、左下の「パスワード変更」から変更することも可能です。



3. 「インストーラー」→「インストーラーの作成」→「オールインワンインストーラー」をクリックします。



4. 「セキュリティ製品」にチェックを入れ、「続行」をクリックします。

オールインワンインストーラーの作成
インストーラー > オールインワンインストーラーの作成

基本

▲ セキュリティ製品

証明書

▲ 詳細

ダウンロード

製品改善プログラムに参加する
有効にすると、クラッシュレポート、およびOSバージョンやタイプ、ESET製品バージョン、および他の製品固有の情報といった匿名のテレメトリデータをESETに送信しています。

パッケージの内容

☒ 管理エージェント

☒ セキュリティ製品

戻る 続行 終了 キャンセル

5. 「ライセンス（任意）」にライセンスが登録されていることを確認します。ライセンス情報をオールインワンインストーラーに組み込まない場合は、「×」をクリックすることでライセンス情報を削除できます。

オールインワンインストーラーの作成
インストーラー > ESET Endpoint Security (ja_JP)

基本

▲ セキュリティ製品

証明書

▲ 詳細

ダウンロード

製品/バージョン
ESET Endpoint Security: windows (WINDOWS)のバージョン7.3.2039.1、言語ja_JP

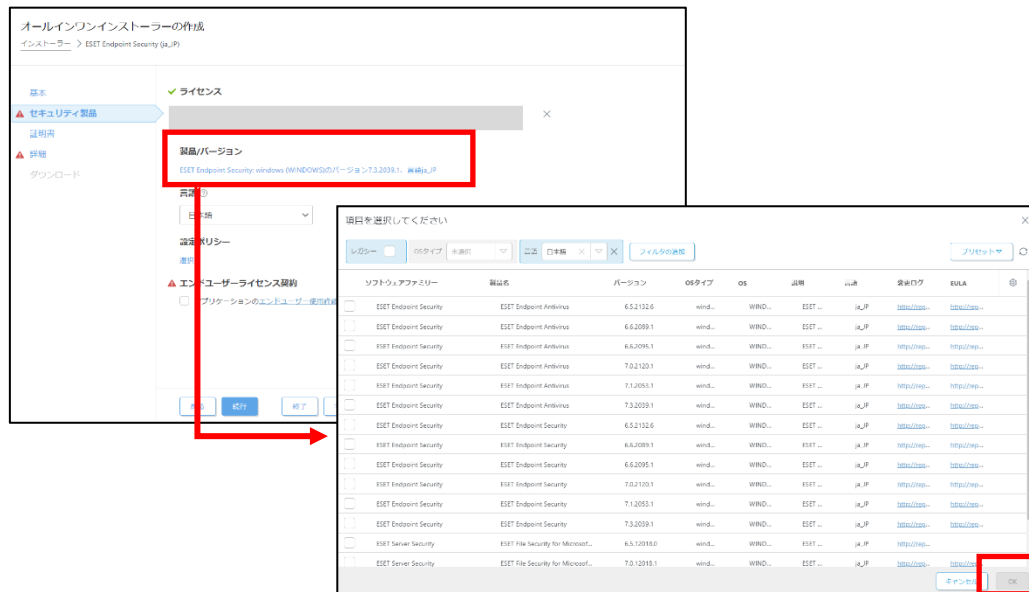
言語 ①
日本語

設定ポリシー
選択

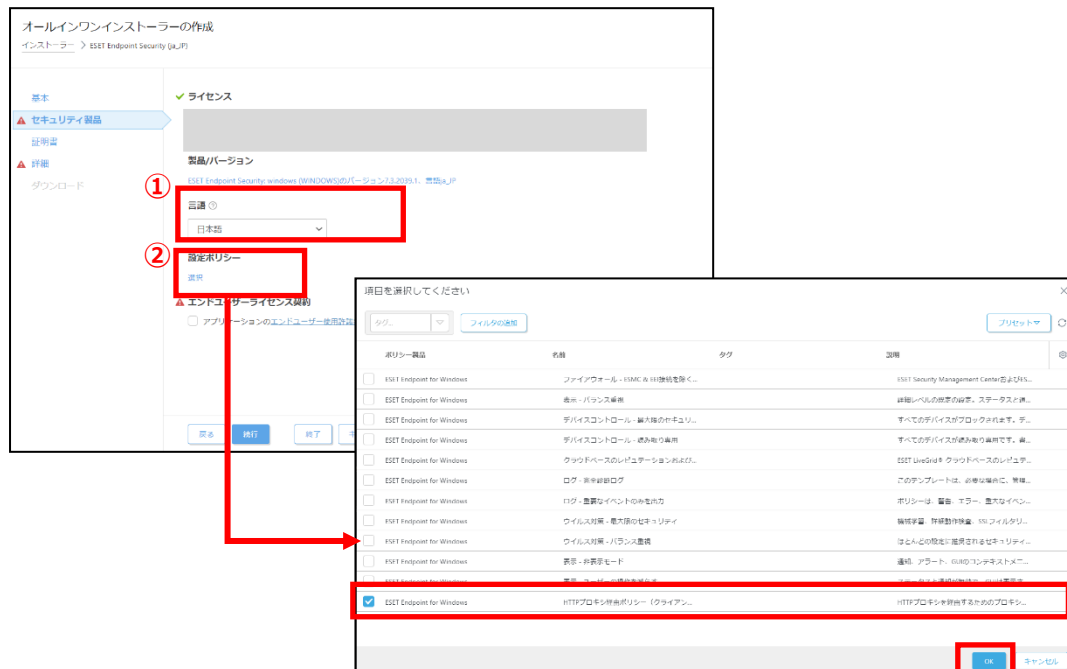
▲ エンドユーザーライセンス契約
☐ アプリケーションのエンドユーザー使用許諾契約の条項に同意し、プライバシーポリシーを確認します。

戻る 続行 終了 キャンセル

6. 「製品/バージョン」より、インストールしたいクライアント用プログラムを選択します。



7. ①「言語」で「日本語」を選択します。
 ②既存のポリシーを適用させて、クライアント端末にインストールする場合は「設定ポリシー」から、事前に作成したポリシーを選択します。
 ※HTTP プロキシを経由する場合はこちらを選択します



8. 「エンドユーザーライセンス契約」の「アプリケーションのエンドユーザー使用許諾契約の条項に同意し、プライバシーポリシーを確認します。」にチェックを入れ、「続行」をクリックします。

オールインワンインストーラーの作成
インストーラー > オールインワンインストーラーの作成

基本
セキュリティ製品
証明書
詳細
ダウンロード

✓ ライセンス

製品/バージョン
ESET Endpoint Antivirus: windows (WINDOWS)のバージョン7.3.2039.1、言語ja_JP

言語 ①
日本語

設定ポリシー
HTTPプロキシ経由ポリシー (クライアント) X

エンドユーザーライセンス契約
☒ アプリケーションのエンドユーザー使用許諾契約の条項に同意し、プライバシーポリシーを確認します。

戻る 続行 終了 キャンセル

9. ①「ESMC 証明書」が選択されていることを確認します。
②ESMC 証明書に証明書が登録されていることを確認します。
③「証明書パスフレーズ」には、「3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備」で確認した「証明書パスフレーズ」を入力します。
④「続行」をクリックします。

基本
セキュリティ製品
証明書
詳細
ダウンロード

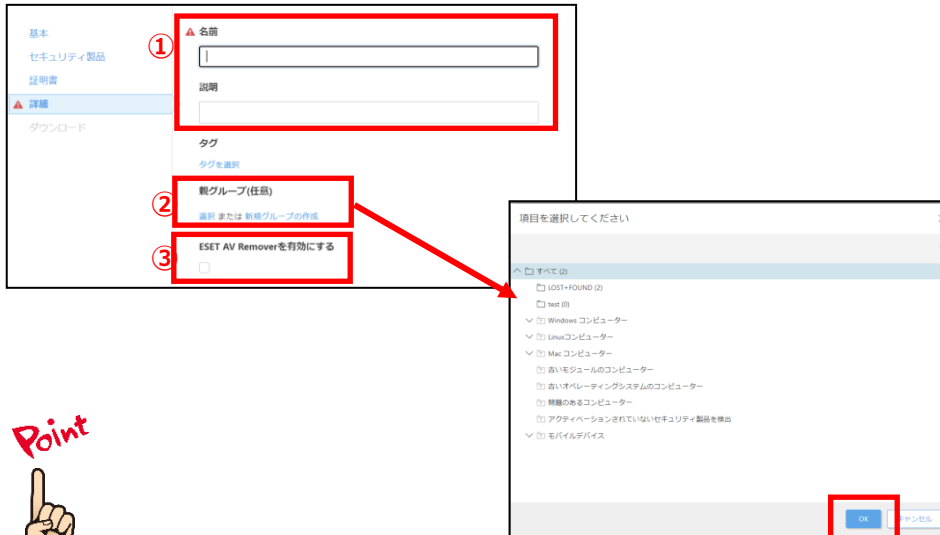
① ビア証明書
☒ ESMC証明書
☐ カスタム証明書

② ESMC証明書

③ 証明書パスフレーズ ①
証明書パスフレーズを表示

④ 戻る 続行 終了 キャンセル

10. ①「名前」には任意のインストーラー名を入力します。
 ※「説明」の入力は任意です。
 ②「親グループ(任意)」では、[選択]をクリックし、**ご利用開始時に提供されている既定のグループを必ず選択してください。**
 ③[ESET AV Remover を有効にする]に**チェックが入っていないことを確認**します。チェックが入っていた場合は外してください。

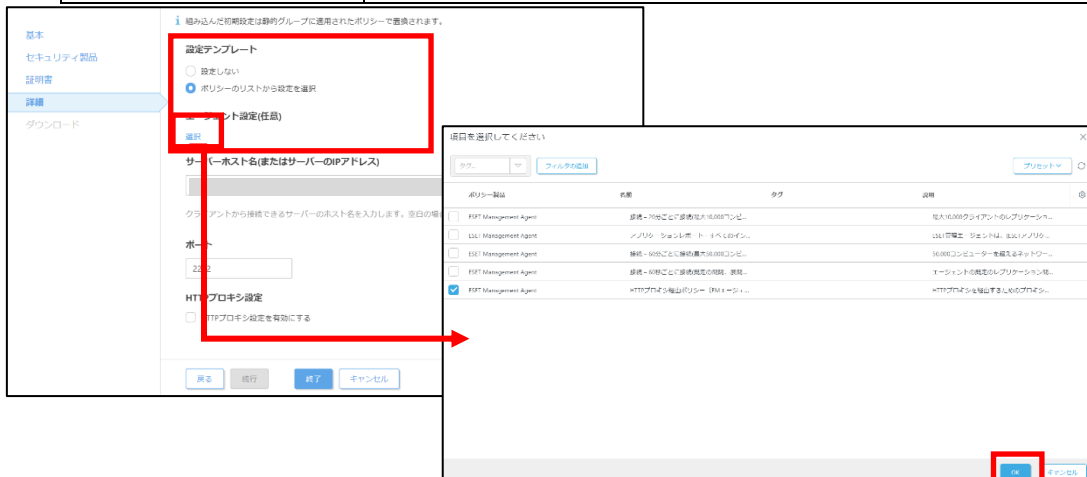


「親グループ(任意)」を選択しないと、クライアントが管理サーバーに表示されません。必ず選択をお願いいたします。

また、親グループに「すべて」を選択することはできません。

11. 「インストーラーの初期設定」の「設定テンプレート」では、以下を参考に設定します。

設定しない	既定の設定から変更せずに、クライアント端末にインストールする場合
ポリシーのリストから設定を選択	既存のポリシーを適用させて、クライアント端末にインストールする場合 ※HTTP プロキシを経由する場合はこちらを選択します。





新しいポリシーを作成する場合は、下記の WEB ページをご参照ください。
 【ESET Security Management Center V7 を利用して、新しいポリシーを作成する手順】
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/11854?site_domain=business

12. ①「サーバーホスト名（またはサーバーの IP アドレス）」に「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「ESMC サーバー/ERA サーバーの IP アドレス」を入力してください。
 ②「ポート」にポート番号「**2222**」が入力されていることを確認します。
 ③「終了」をクリックします。

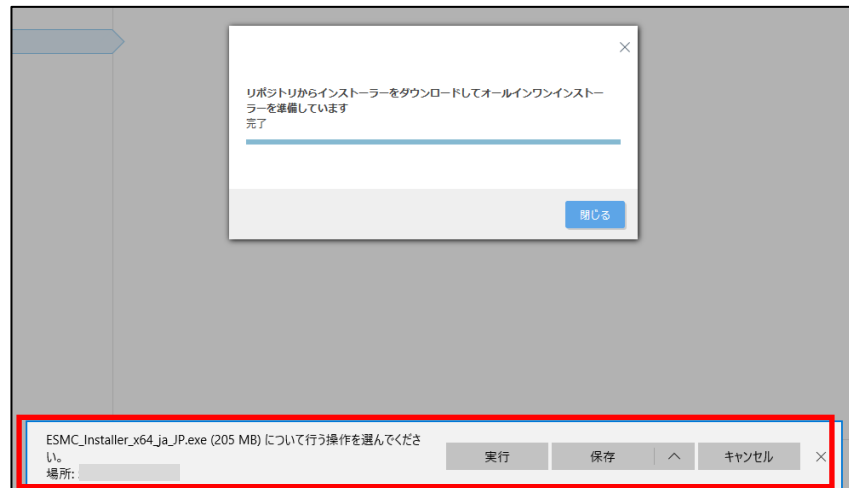
13. インストールするクライアント端末の環境にあわせて、「32bit 版をダウンロード」または「64bit 版をダウンロード」をクリックします。



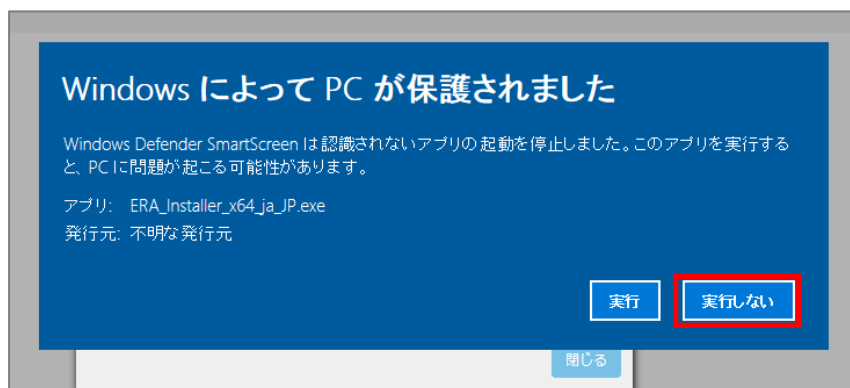
ご利用のネットワーク環境によって、オールインワンインストーラーのダウンロードに時間がかかる場合があります。
 プログレスバーが動かない場合でも、プログラムのダウンロードを行っていますので、しばらくお待ちください。

14. ファイルの保存を促す画面が表示されたら、任意の保存先を指定してインストーラーを保存します。

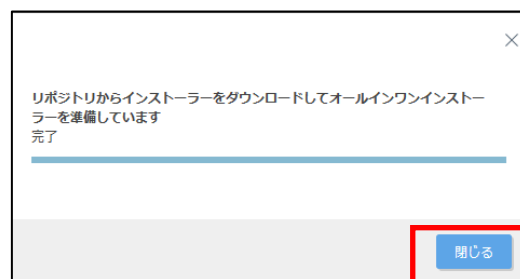
※ファイル名は、32bit 用のオールインワンインストーラーの場合「ESMC_Installer_x86_ja_JP.exe」、64bit 用のオールインワンインストーラーの場合「ESMC_Installer_x64_ja_JP.exe」です。



15. 以下画面が表示されたら、「実行しない」を選択してください。



16. 終了したら「閉じる」ボタンをクリックします。



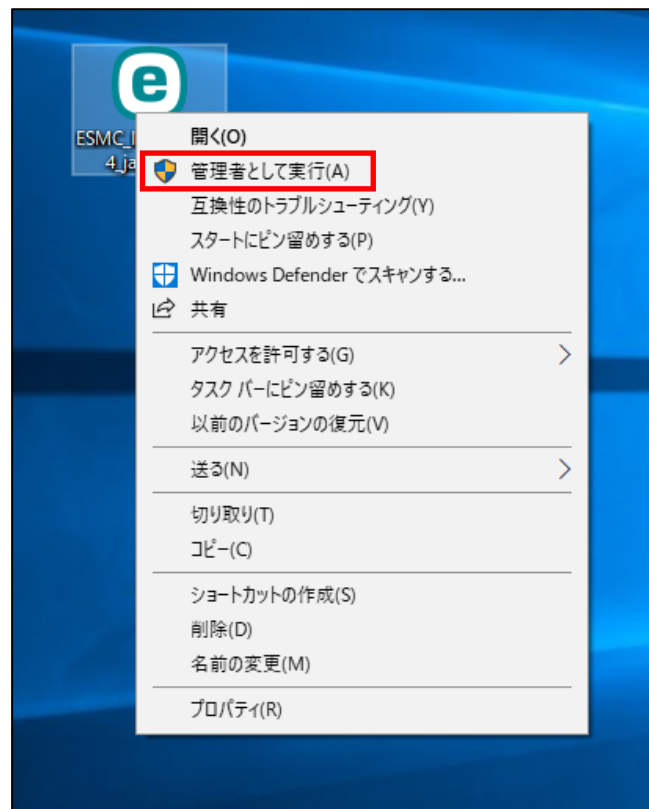
以上でオールインワンインストーラーの作成は完了です。
手順 14 で指定した場所に、オールインワンインストーラーが保存されていることを確認し、クライアントに配布してください。

A-1-2. オールインワンインストーラーの実行【クライアント側作業】

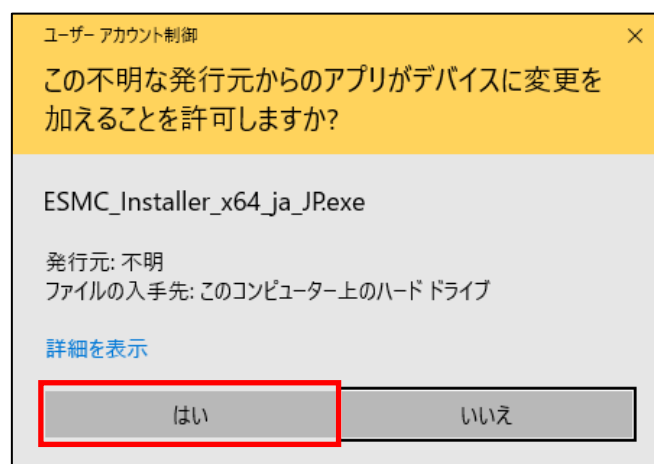
オールインワンインストーラーを各クライアント端末上で実行し、EM エージェントと ESET クライアント用プログラムをインストールします。

以下にオールインワンインストーラーの実行手順を記載します。

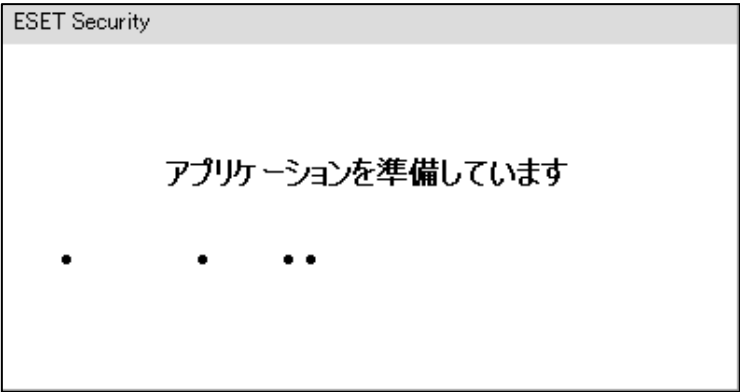
1. オールインワンインストーラーを右クリックより、「管理者として実行」をクリックします。



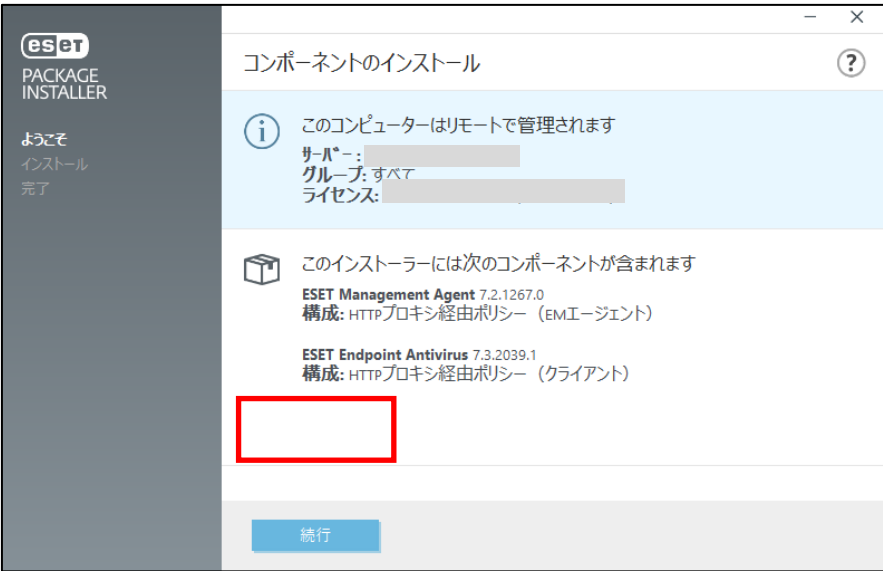
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」 ボタンをクリックします。



3. 以下の画面が表示され、アプリケーションが起動します。

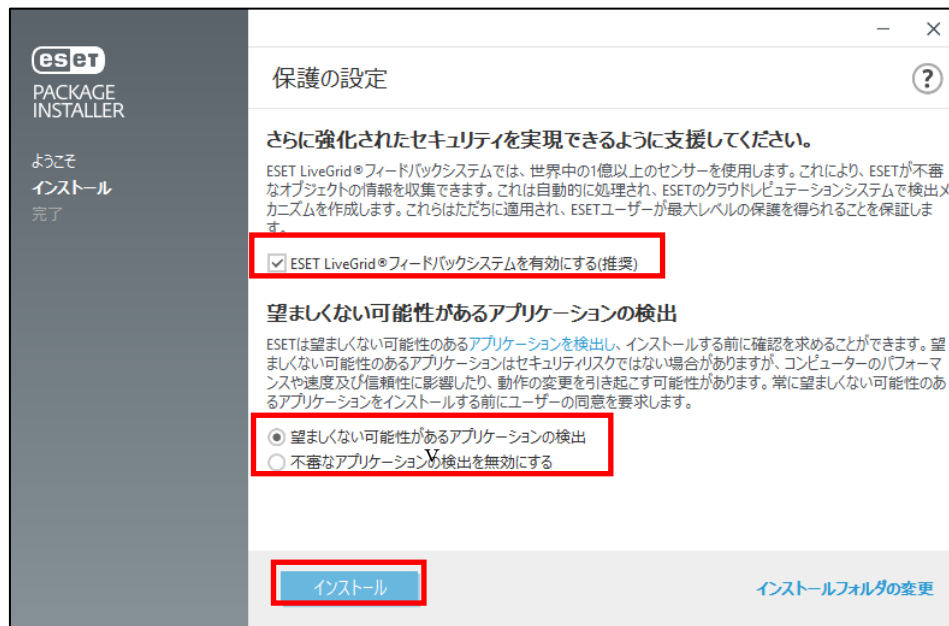


4. 「続行」ボタンをクリックします。

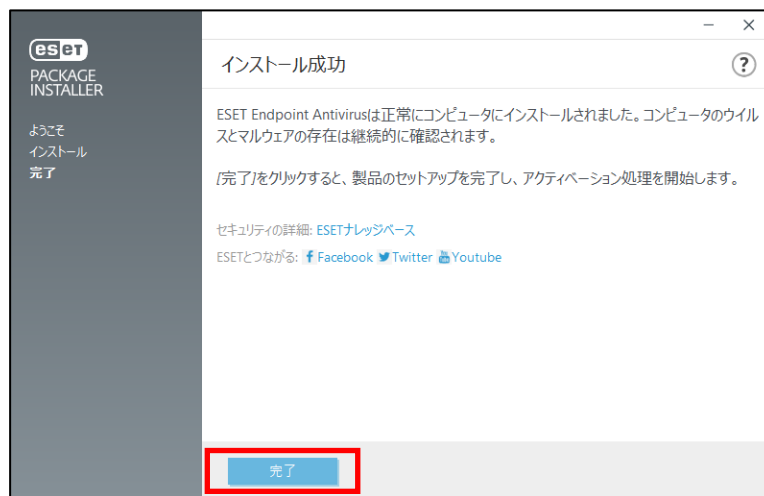


5. 「保護の設定」画面で、以下を参考に設定し、「インストール」ボタンをクリックします。

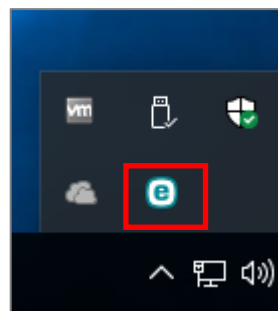
ESET LiveGrid フィードバックシステムを有効にする	チェックを入れると、本プログラムが新しい脅威を発見した場合に ESET 社へその情報を提出します。
望ましくない可能性のあるアプリケーションの検出	望ましくないアプリケーションの検出有無を選択します。 ※ESET 製品は「不審なアプリケーション」を「望ましくない可能性のあるアプリケーション」として検出します。



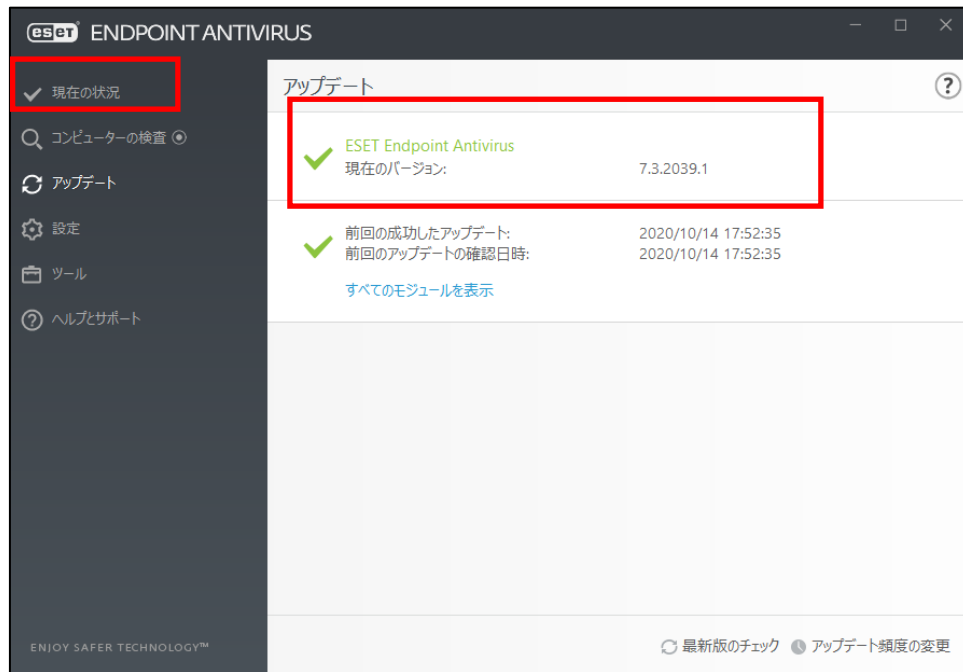
- 「インストール成功」画面が表示されたら、「完了」ボタンをクリックしてください。



- タスクトレイの ESET アイコンをダブルクリックし、ESET のメイン画面が開きます。



8. 「アップデート」より、検出エンジンのアップデートが自動で開始され、「前回の成功したアップデート」に現在の時刻が入っていることを確認してください。
※初回アップデートが完了すると、コンピュータの検査が開始いたします。



以上でオールインワンインストーラーの実行は完了です。
続いて「6. クラウドオプション Lite で管理ができていることを確認」に進んでください。

【既存お客様向け】

A-2-1. オールインワンインストーラー (EM エージェントのみ) の作成 【管理サーバー側作業】

クラウドオプション Lite でクライアントの管理を行うためには、EM エージェントのインストールが必要です。すでに、クライアント用プログラムをご利用の方は ESMC で作成した EM エージェントインストール用の exe ファイルを実行することで、クラウドオプション Lite で管理を行うことが可能です。

以下に、オールインワンインストーラー (EM エージェントのみ) の作成手順を記載します。

1. Web ブラウザより、「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「Web コンソール (管理画面) ログイン用 URL」にアクセスします。

以下の画面が表示されますので、「危険性を承知で続行」をクリックします。



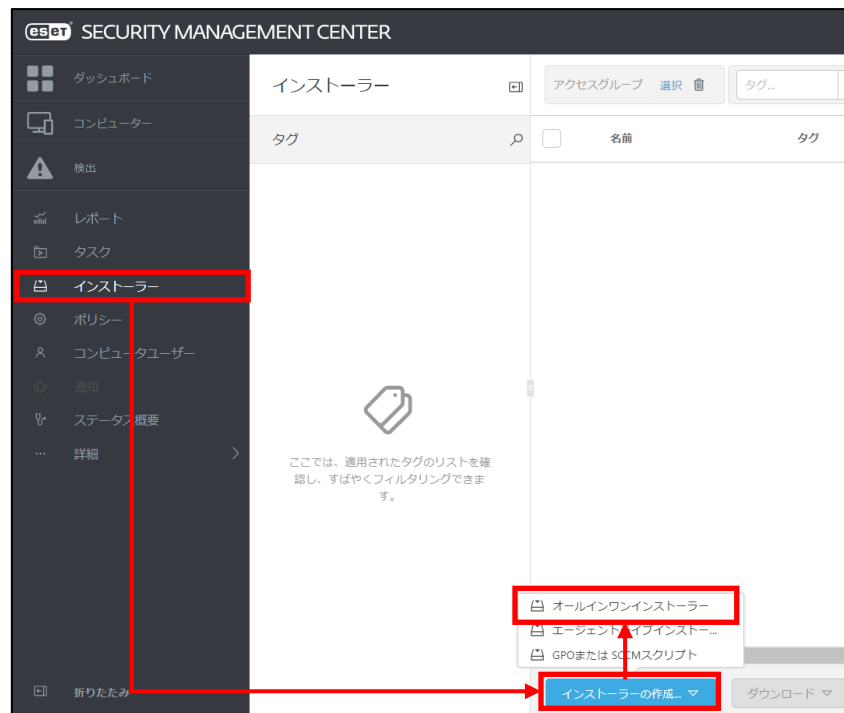
※ここでは、ESET Security Management Center インストール時に作成したセキュリティ証明書を利用しているため、管理画面アクセス時に上記の注意画面が表示されます。

※お使いのブラウザより、表示内容が異なります。

2. 「3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備」で確認した①「ESMC ログイン名」、②「ESMC ログインパスワード」を入力し、③「日本語」を選択して、④「ログイン」をクリックします。



3. 左メニューより、「インストーラー」→「インストーラーの作成」→「オールインワンインストーラー」をクリックします。



4. 「パッケージの内容」で「管理エージェント」にのみチェックが入っていることを確認し、「続行」をクリックします。

The screenshot shows the 'Package Content' section of the ESET Cloud Lite installation wizard. The 'Management Agent' checkbox is checked, and the 'Continue' button is highlighted with a red box. A red arrow points from the 'Management Agent' checkbox to the 'Continue' button.

5. ①「ESMC 証明書」が選択されていることを確認します。
 ② ESMC 証明書に証明書が登録されていることを確認します。
 ③ 「証明書パスフレーズ」には、「3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備」で確認した「証明書パスフレーズ」を入力します。
 ④ 「続行」をクリックします。

The screenshot shows the 'Certificate' section of the ESET Cloud Lite installation wizard. The 'ESMC Certificate' radio button is selected, and the 'Continue' button is highlighted with a red box and a number 4. Red boxes and numbers 1 through 4 highlight the following elements: 1. The 'ESMC Certificate' radio button. 2. The 'ESMC Certificate' section header and the placeholder for the certificate. 3. The 'Certificate Password' input field. 4. The 'Continue' button.

6. ①「名前」には任意のインストーラー名を入力します。
※「説明」に入力は任意です。
- ②「親グループ（任意）」では、[選択]をクリックし、**ご利用開始時に提供されている既定のグループを必ず選択してください。**
- ③[ESET AV Remover を有効にする]に**チェックが入っていないことを確認**します。チェックが入っていた場合は外してください。

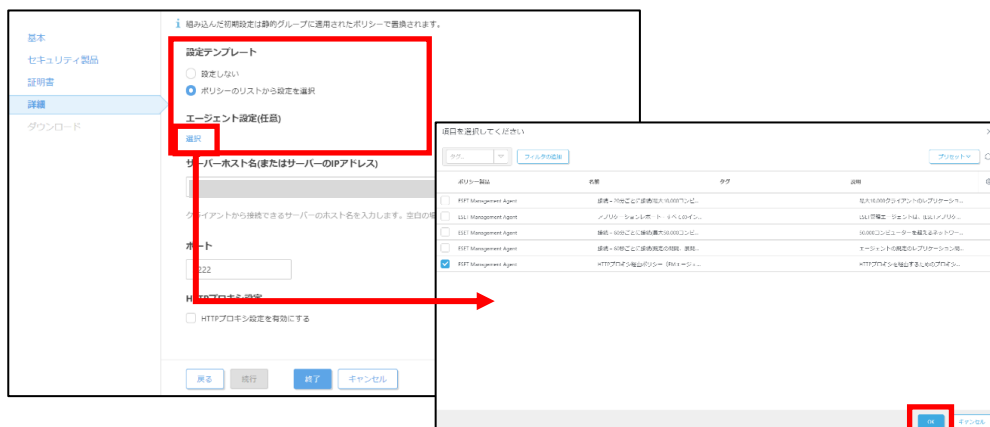


Point 「親グループ(任意)」を選択しないと、クライアントが管理サーバーに表示されません。必ず選択をお願いいたします。

また、親グループに「すべて」を選択することはできません。

7. 「インストーラーの初期設定」の「設定テンプレート」では、以下を参考に設定します。

設定しない	既定の設定から変更せずに、エージェントをクライアント端末にインストールする場合
ポリシーのリストから設定を選択	既存のポリシーを適用させて、エージェントをクライアント端末にインストールする場合 ※HTTPプロキシを経由する場合はこちらを選択します。

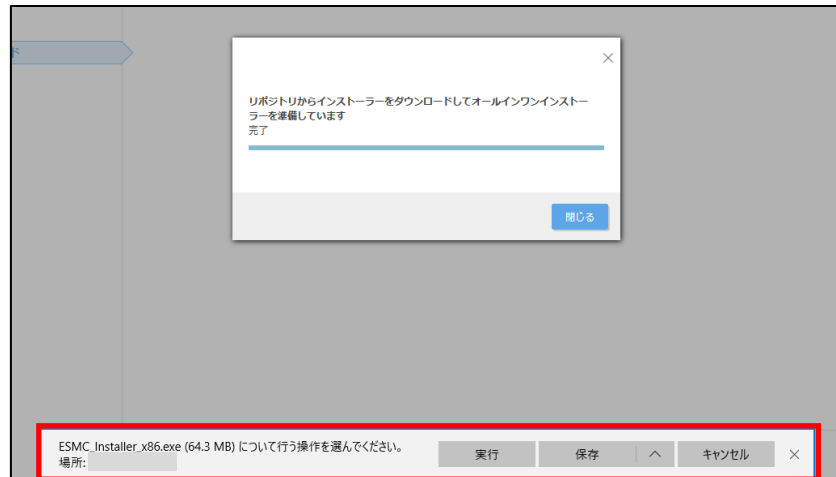


8. ①「サーバーホスト名（またはサーバーの IP アドレス）」に「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「ESMC サーバー/ERA サーバーの IP アドレス」を入力してください。
- ②「ポート」にポート番号「**2222**」が入力されていることを確認します。
- ③「終了」をクリックします。

9. インストールするクライアント端末の環境にあわせて、「[32bit 版をダウンロード] または「64bit 版をダウンロード」をクリックします。

10. ファイルの保存を促す画面が表示されたら、任意の保存先を指定してインストーラーを保存します。

※ファイル名は、32bit 用のオールインワンインストーラーの場合「ESMC_Installer_x86.exe」、64bit 用のオールインワンインストーラーの場合「ESMC_Installer_x64.exe」です。

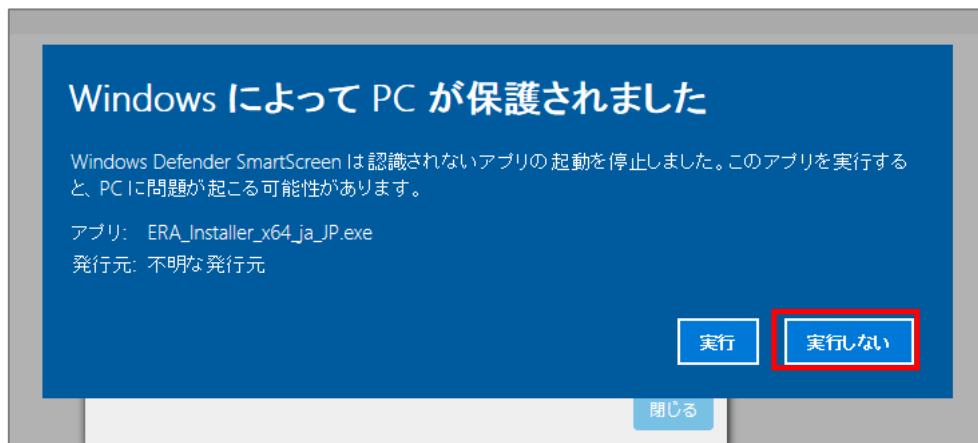


Point

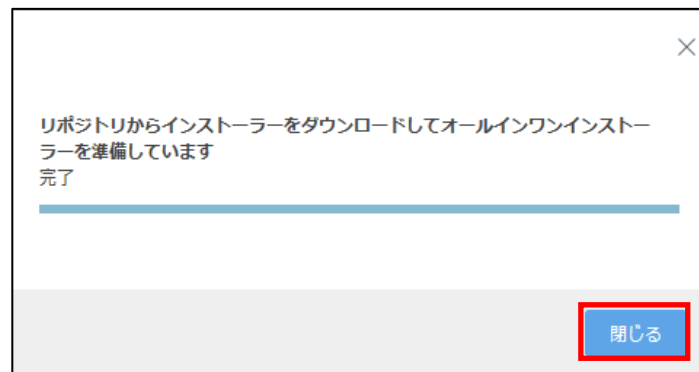


ご利用のネットワーク環境によって、オールインワンインストーラーのダウンロードに時間がかかる場合があります。プログレスバーが動かない場合でも、プログラムのダウンロードを行っていますので、しばらくお待ちください。

11. 下の画面が表示されたら、「実行しない」を選択してください。



12. 終了したら「閉じる」ボタンをクリックします。



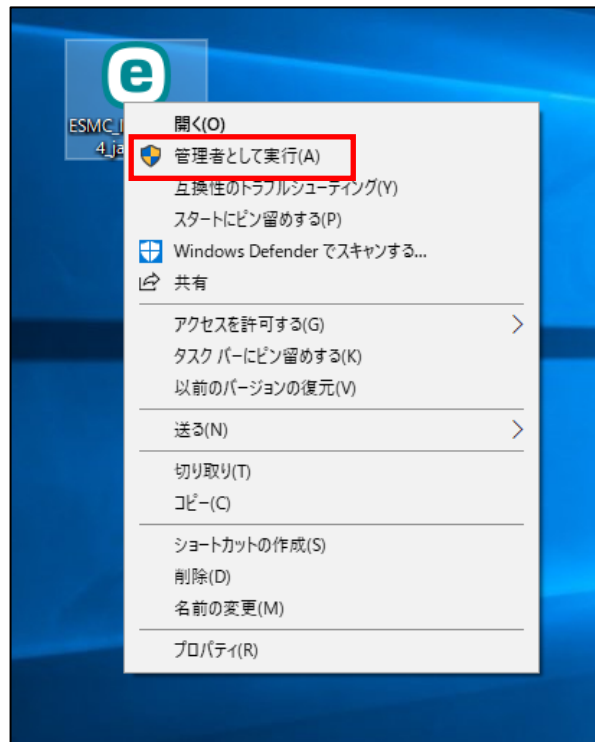
以上でオールインワンインストーラーの作成は完了です。
手順 10 で指定した場所に、オールインワンインストーラーが保存されていることを確認し、クライアントに配布してください。

A-2-2. オールインワンインストーラー（EM エージェントのみ）の実行 【クライアント側作業】

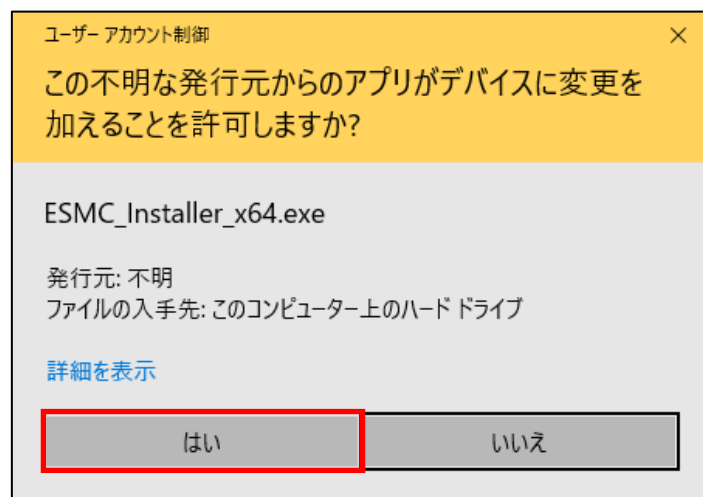
オールインワンインストーラーを各クライアント端末上で実行し、EM エージェントをインストールします。

以下にオールインワンインストーラーの実行手順を記載します。

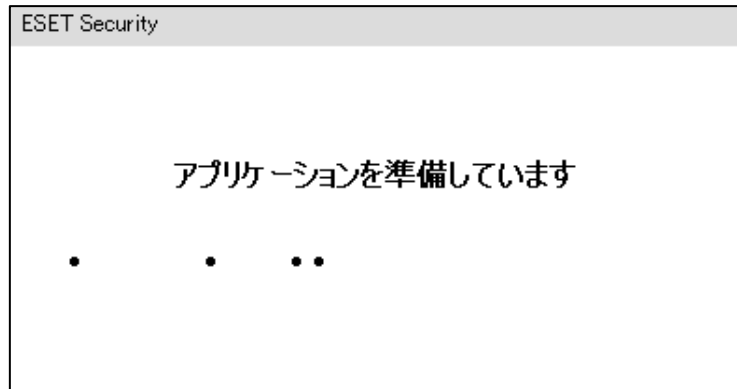
1. オールインワンインストーラーを右クリックより、「管理者として実行」をクリックします。



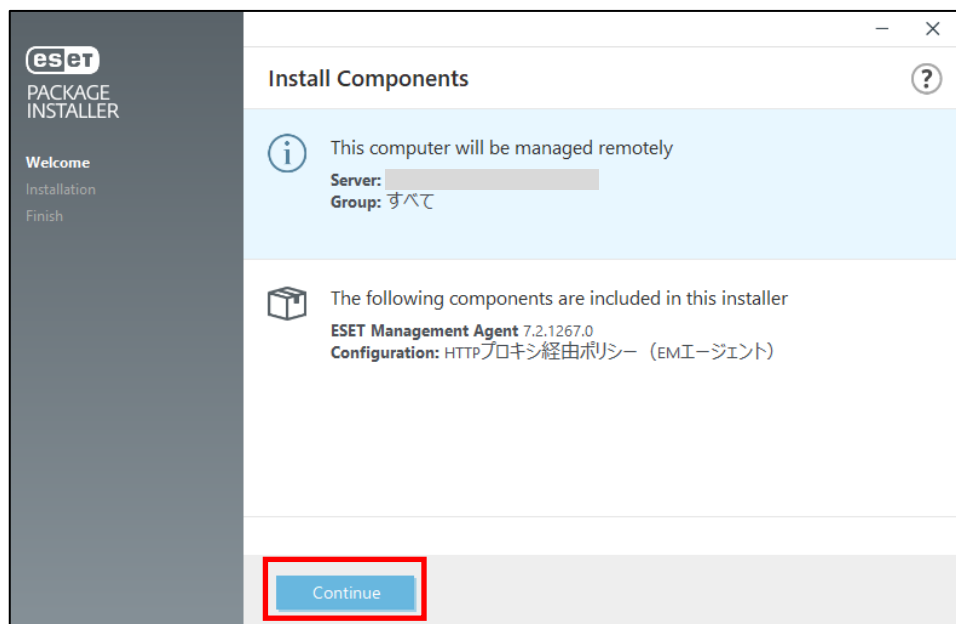
2. 「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」 ボタンをクリックします。



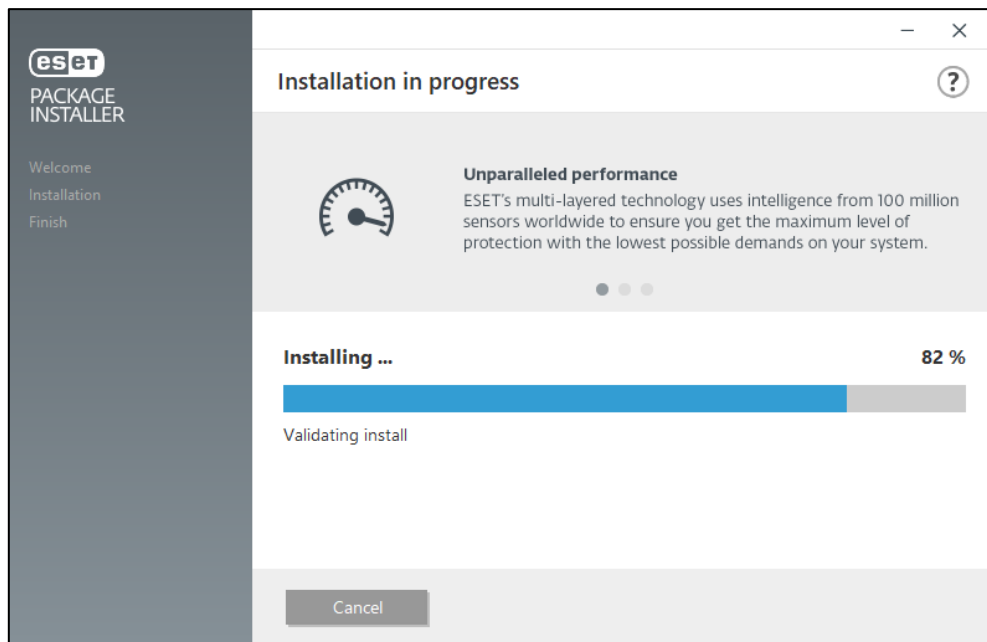
3. 以下の画面が表示され、アプリケーションが起動します。



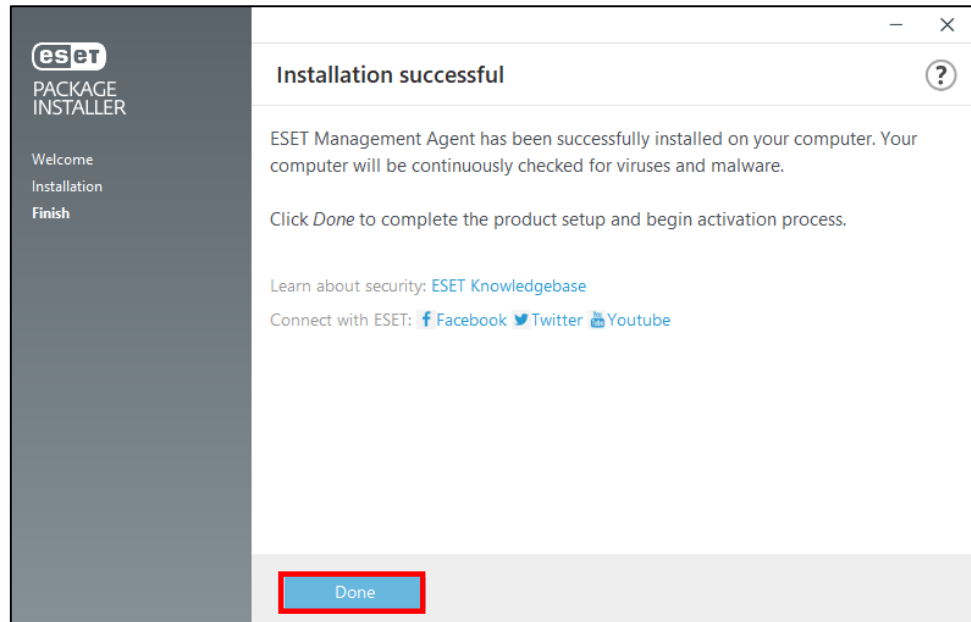
4. 「Continue」をクリックします。



5. 以下のような画面が表示され、自動的にインストールが進みます。



6. 「Installation successful」画面が表示されたら、「Done」ボタンをクリックしてください。



以上で、EM エージェントのインストールは完了です。
続いて、「6. クラウドオプション Lite で管理ができていることを確認」に進んでください。

B) Mac、Linux 端末への展開

【新規お客様向け】

クライアント用プログラムがインストールされていない

B-1-1. クライアント用プログラムのインストール【クライアント側作業】

ESET クライアント用プログラムを各クライアント端末上で実行します。



B-1-2. エージェントライブインストーラーの作成【管理サーバー側作業】

「EM エージェント」をインストールするためのエージェントライブインストーラーを ESMC で作成します。プログラム作成後はクライアント端末に配布します。



B-1-3. エージェントライブインストーラーの実行【クライアント側作業】

インストールが完了すると、クラウドオプション Lite の ESMC と通信が自動的に行われま



7. クラウドオプション Lite で管理ができていることを確認【管理サーバー側作業】

Web ブラウザからクラウドオプション Lite の ESMC にアクセスし、クライアントの管理状況を確認します。

【既存お客様向け】

すでにクライアント用プログラムはインストールされている

B-1-1. クライアント用プログラムのインストール【クライアント側作業】

各クライアント端末に ESET クライアント用プログラムをインストールします。

インストール方法につきまして、ユーザーズサイトよりダウンロード可能な各プログラムのユーザーズマニュアルをご参照ください。



クラウドオプション Lite の ESMC のソフトウェアインストールタスクを利用して、クライアントプログラムをリモートでインストールすることも可能です。

実施手順につきまして、以下の Web ページをご参照ください。

※先に EM エージェントを導入する必要があります。

【【V6.5 以降】クライアント管理用プログラムに搭載されているソフトウェアインストールタスクを使用して、クライアント用プログラムをリモートインストールするには？】

https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/5165?site_domain=business

【HTTP プロキシを経由する場合】

インターネット接続にプロキシサーバーを経由する場合は、以下を参照しプロキシサーバー設定を行ってください。

詳細は、各プログラムのユーザーズマニュアルをご参照ください。

◆Mac クライアント用プログラム

「詳細設定」→「プロキシサーバー」

◆Linux サーバー用プログラム

Web インターフェースより、「Configuration」→「Global」→「Daemon options」
→「Proxy address」と「Proxy port」

◆Linux クライアント用プログラム

「詳細設定」→「その他」→「プロキシサーバー」

B-1-2. エージェントライブインストーラーの作成【管理サーバー側作業】

クラウドオプション Lite でクライアントの管理を行うためには、クライアント用プログラムのほかに EM エージェントのインストールが必要です。EM エージェントをインストールするには、EM エージェントインストール用の bat ファイル「エージェントライブインストーラー」を利用します。

以下に、オールインワンインストーラー (EM エージェントのみ) の作成手順を記載します。

1. Web ブラウザより、「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「Web コンソール (管理画面) ログイン用 URL」にアクセスします。

以下の画面が表示されますので、「危険性を承知で続行」をクリックします。



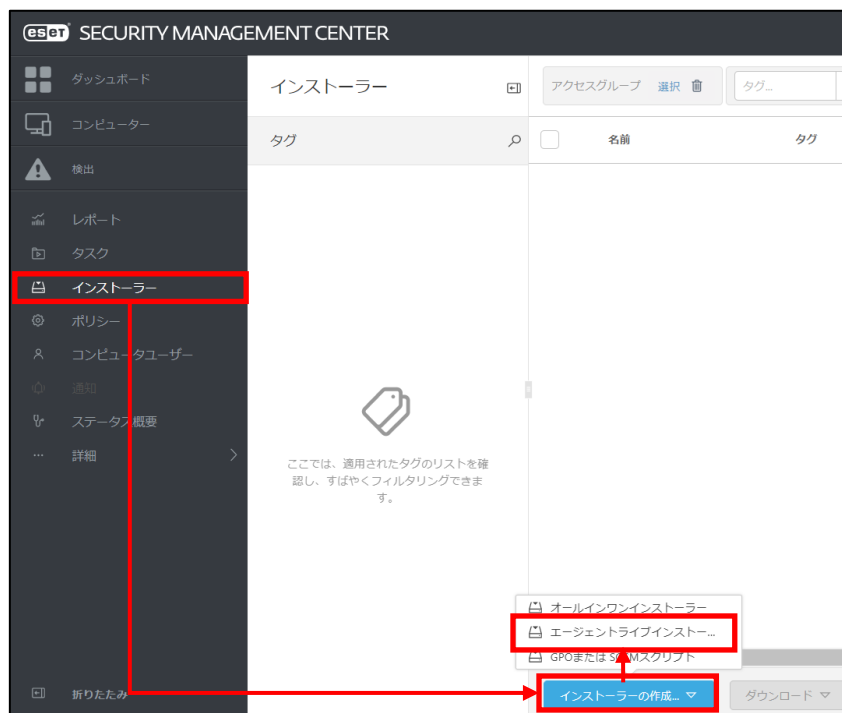
※ここでは、ESET Security Management Center インストール時に作成したセキュリティ証明書を利用しているため、管理画面アクセス時に上記の注意画面が表示されます。

※お使いのブラウザより、表示内容が異なります。

2. 「3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備」で確認した①「ESMC ログイン名」②「ESMC ログインパスワード」を入力し、③「日本語」を選択して、④「ログイン」をクリックします。



3. 左メニューより、「インストーラー」→「インストーラーの作成」→「エージェントライブインストーラー」をクリックします。

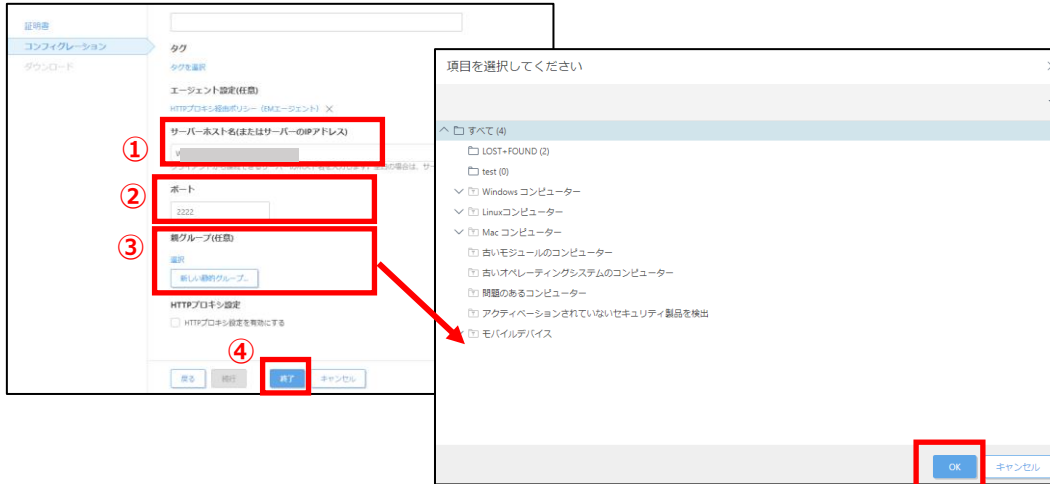


4. ①「ESMC 証明書」が選択されていることを確認します。
- ② ESMC 証明書に証明書が登録されていることを確認します。
- ③「証明書パスフレーズ」には、「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「証明書パスフレーズ」を入力します。
- ④「続行」をクリックします。

5. ①名前を入力します。
※説明の入力は任意です。
- ②「エージェント設定 (任意)」の「設定テンプレート」では、以下を参考に設定します。

設定しない	既定の設定から変更せずに、エージェントをクライアント端末にインストールする場合
ポリシーのリストから設定を選択	既存のポリシーを適用させて、エージェントをクライアント端末にインストールする場合 ※HTTPプロキシを経由する場合はこちらを選択します。

6. ①「サーバーホスト名（またはサーバーの IP アドレス）」に「**3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備**」で確認した「ESMC サーバー/ERA サーバーの IP アドレス」を入力してください。
- ②「ポート」にポート番号「**2222**」が入力されていることを確認します。
- ③「親グループ（任意）」では、[選択]をクリックし、**ご利用開始時に提供されている既定のグループを必ず選択してください。**
- ③ 「終了」をクリックします。



Point 「親グループ(任意)」を選択しないと、クライアントが管理サーバーに表示されません。必ず選択をお願いいたします。

また、親グループに「すべて」を選択することはできません。

7. ご利用の OS に応じて、「Linux 用エージェントインストーラ」または「Mac 用エージェントインストーラ」をダウンロードします。
※「ESMCAgentInstaller.tar.gz」がダウンロードされます。



ダウンロードが完了したら、各クライアントに配布し実行します。

B-1-3. エージェントライブインストーラーの実行【クライアント側作業】

エージェントライブインストーラーを各クライアント端末上で実行し、EM エージェントをインストールします。

実行手順につきましては、ユーザーズサイトからダウンロード可能な「ESET Security Management Center V7.2 ユーザーズマニュアル」の「エージェントライブインストーラーの実行 (P227)」より、使用する OS の実行方法をご参照ください。

以上で、EM エージェントインストールは完了です。

続いて「6. クラウドオプション Lite で管理ができていることを確認」に進んでください。

6. クラウドオプションで管理できていることを確認【管理サーバー側作業】

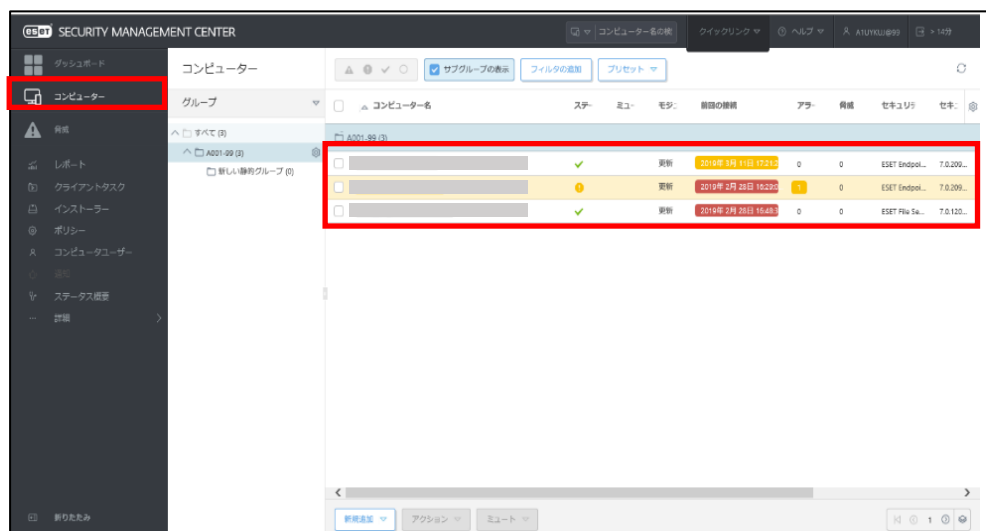
ESET Security Management Center でクライアント端末の管理ができていることを確認します。

以下に、クライアント管理の確認手順を記載します。

1. 「3.6.ライセンス情報・ログイン情報の準備」で確認した①「ESMC ログイン名」、②「ESMC ログインパスワード」を入力し、③「日本語」を選択して、④「ログイン」をクリックします。



2. 「コンピューター」のクライアントの一覧画面よりクライアントが表示されていることを確認してください。
※クライアント展開時に指定した静的グループをご確認ください。



3. 管理対象クライアント端末のステータスが黄色や赤色になっている場合、クライアント側でエラー（検出エンジンがアップデートされていない、アクティベーションされていない）が発生している可能性があります。
詳細を確認し、ご対応ください。



コンピューター名を実際のコンピューター名に変換する場合は、「サーバータスク」の「コンピューター名の変更」タスクをご使用ください。
タスクのご使用方法は ESET Security Management Center V7.2 ユーザーズマニュアルより、「8.9.30 コンピューター名の変更 (P479)」をご確認ください。

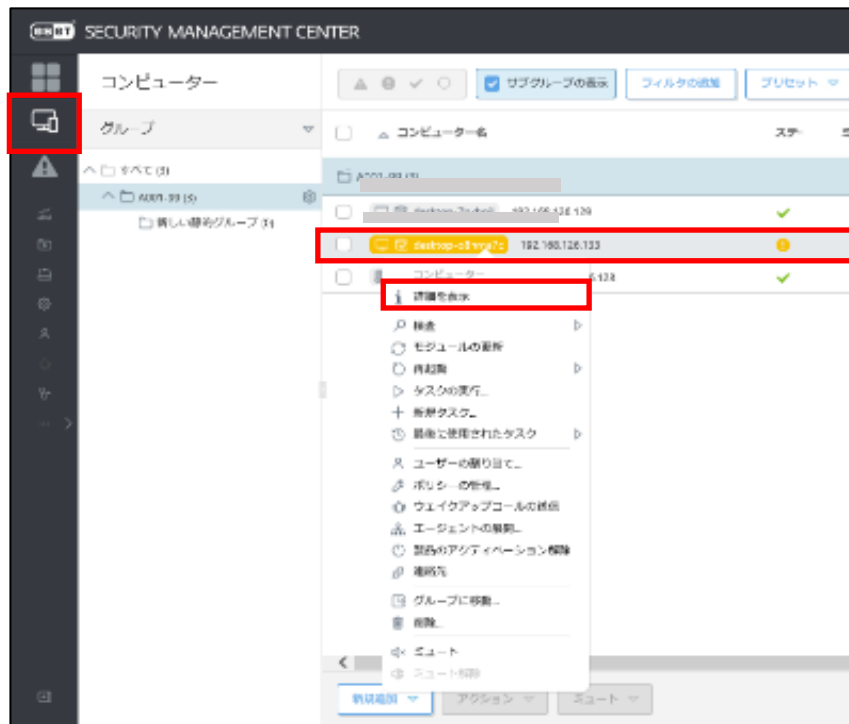
完了

以上でクラウドオプション Lite でのクライアント端末の管理は完了です。

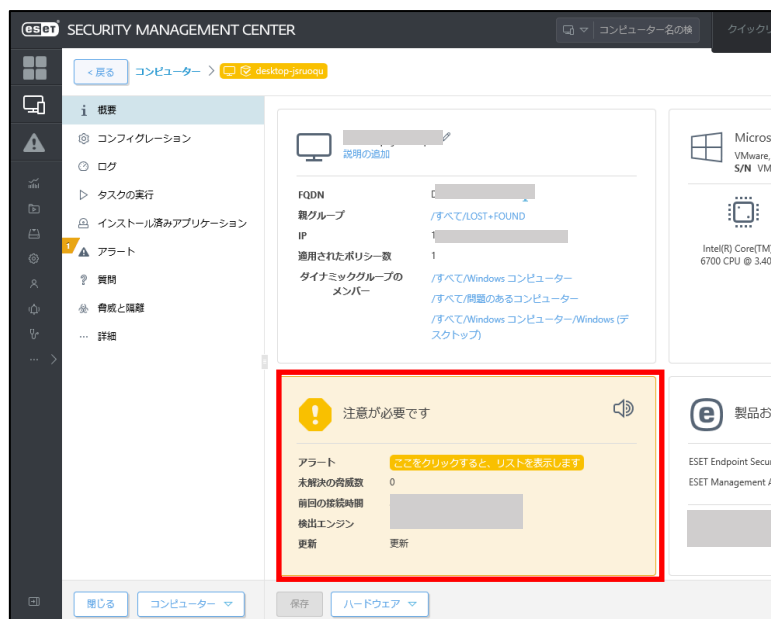
その他、ESET Security Management Center の操作方法につきましては、「ESET Security Management Center V7.2 ユーザーズマニュアル」を参照し、クラウドオプション Lite をご利用ください。

【参考】クライアント端末の詳細情報確認

1. 「コンピューター」の一覧より、任意のクライアントコンピューターをクリックし、メニューから「詳細を表示」を選択します。



2. 該当クライアントの詳細情報が表示されます。こちらの画面で検出エンジンのバージョン、OS 情報、ESET 設定などが確認できます。



また、ユーザーズサイトでご提供している機能説明資料なども合わせてご参照いただき、クラウドオプション Lite をご利用ください。

■ ESET Endpoint Protection シリーズ ユーザーズサイト
<https://canon-its.jp/product/eset/users/>

※機能説明資料はユーザーズサイトの[プログラム/マニュアル] - [最新バージョンをダウンロード]の、10.製品説明資料・各種手順書より以下のファイルをダウンロードください。

- ・ Windows 向けクライアント用プログラム (V8.x) 機能紹介資料
- ・ Windows / Windows Server 向けクライアント用プログラム (V7.x) 機能紹介資料
- ・ Mac 向けクライアント用プログラム (V6.x) 新機能紹介資料
- ・ Linux Desktop 向けクライアント用プログラム (V4.0) 機能紹介資料
- ・ Android 向けクライアント用プログラム (V2.x) 新機能紹介資料
- ・ Linux Server 向けクライアント用プログラム (V7.2) 機能紹介資料
- ・ Linux Server 向けクライアント用プログラム (V4.5) 機能紹介資料
- ・ ESET Security Management Center V7.x 新機能紹介資料

また、弊社 ESET サポート情報ページにて、製品機能・仕様・操作手順などの情報を公開していますので、ご利用ください。

■ ESET サポート情報 法人向けサーバー・クライアント用製品
https://eset-support.canon-its.jp/?site_domain=business

ご不明な点などがございましたら、上記 Web ページをご確認いただくか、下記 Web ページより弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

■ お問い合わせ窓口 (サポートセンター)
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/883?site_domain=business
